

(12) NPOへのヒアリング(その6)

地域住民が中心となった景観形成への取り組み

/ NPO法人都心界隈まちづくりネット

取り組みのポイント

平成7年、姉小路界隈でのマンション建設問題を契機に、地域住民を中心に学習会を連続的に開催。まちを再発見し、皆が納得できるまちの将来像を探ることの必要性を確認し、「姉小路界隈を考える会」(任意団体)を設立した。

「姉小路界隈を考える会」の取り組みのひとつとしては、平成12年にまちづくりの基本方針(「姉小路界隈町式目(平成版)」)を定めた。この基本方針をもとに、姉小路界隈で2つの建築協定が締結された。

「NPO法人都心界隈まちづくりネット」は、平成15年に住民と地元企業と行政の協働を図るために、「姉小路界隈を考える会」を中心として設立したNPO団体である。

住民団体やNPO団体が活動するにあたって、最も大事な時期は「活動の初動期」であると感じている。活動が芽生えた時に、資金面や専門家アドバイスなどの支援策が必要である。

【取り組みの概要】

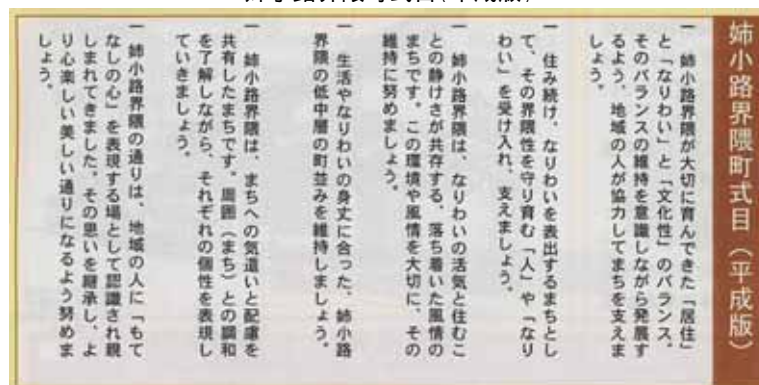
活動のきっかけ ～「姉小路界隈を考える会」～

平成7年6月、高層分譲マンション計画を契機に、地域住民を中心に学習会を連続的に開催。

平成7年10月、まちを再発見し、皆が納得できるまちの将来像を探ることの必要性を確認し、「姉小路界隈を考える会」(任意団体)を設立。

「住みよい、安心して暮らせる環境づくり」の具体化に向けた勉強会を開催し、平成12年4月、「姉小路界隈町式目(平成版)」を策定。これをまちづくりの基本方針とし、平成13年1月、建築協定締結に向けた活動を開始。平成14年7月、姉小路界隈地区・松長町地区建築協定締結。

姉小路界隈町式目(平成版)



平成 15 年 1 月、住民と地元企業と行政の協働を図るために、「姉小路界隈を考える会」を中心に都心の 3 団体が集まり、「NPO 法人都心界隈まちづくりネット」を設立。

「界隈に住む人及び界隈で生業を営む人の総意に基づいたまちづくりの実現を目的に、まちの人一人ひとりの思いを抽出し、合意を導き出すための企画や調整、また行政との連携のもと、その実現に至る仕組みづくり」のための事業を展開。

さらに、「地域の現状やまちづくりの取組の情報を随時発信することにより、地域に

おける情報の共有を図ると共に、京都における住民主体のまちづくりの発展に寄与する」ことを目的に活動を展開。

都心界隈まちづくりネット パンフレット



【具体的な取り組み例】
 「平成 16 年度全国都市再生モデル調査」
 市民合意型の新たな景観ルールづくりを目指した 3 回連続の「景観講座」及びバーチャルリアリティ手法を活用した「景観シミュレーション」を実施。

【NPO 等の活動持続のポイント】

地方公共団体からの支援

住民活動やNPO等にとって一番大事なのは初動期。
 活動が芽生えた時に、資金面や専門家アドバイスなどの支援策が必要。